

**No English title available**

**Patent number:** JP62011745 (U)  
**Publication date:** 1987-01-24  
**Inventor(s):**  
**Applicant(s):**  
**Classification:**  
- international: *B65D41/34; B65D41/34; (IPC1-7): B65D41/34*  
- european:  
**Application number:** JP19850104334U 19850709  
**Priority number(s):** JP19850104334U 19850709

Abstract not available for **JP 62011745 (U)**

---

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

# 公開実用 昭和62-11745

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑬ 公開実用新案公報(U)

昭62-11745

⑫ Int. Cl.<sup>4</sup>

B 65 D 41/34

識別記号

庁内整理番号

6727-3E

⑭ 公開 昭和62年(1987)1月24日

審査請求 未請求 (全頁)

⑮ 考案の名称 不正使用防止機能を有するキャップ

⑯ 実 願 昭60-104334

⑰ 出 願 昭60(1985)7月9日

⑱ 考 案 者 新 井 勇 人 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内  
⑲ 出 願 人 凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号



明

細

書

1. 考案の名称



不正使用防止機能を有するキャップ

2. 実用新案登録請求の範囲

キャップ本体及び該キャップ本体の側壁下端に切断可能な複数の連結片を介して一体に設けられた保証部とから成る合成樹脂製のキャップであって、前記保証部は一定間隔ごとに設けられた舌片を有し、各舌片にはキャップ本体下端とほぼ平行な折曲部及び該折曲部の下方外面に突起を設けたことを特徴とする不正使用防止機能を有するキャップ。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は不正使用防止機能、すなわち、容器の内容物の詰め替え、盗飲等を防止する機能を有するキャップに関するもので、特に薬品、飲食物、洗剤、トイレタリー製品等のびん詰製品に適用されるものである。



### 〔従来の技術〕

従来、この種のキャップとしては、キャップ本体下端に複数の連結片を介して連設された保証部と称するリング状の部材を、容器本体の首部に嵌めた後、熱収縮させて緊締する方式のものと、上記保証部に突起等を設けて容器本体の首部の凸部と係合させて緊締する方式のものが知られている。

### 〔考案が解決しようとする問題点〕

しかし、上記従来の技術のうち、前者のものは保証部を加熱するという二次加工及びそのための設備が必要であり、また、加熱時の熱により連結片が切断してしまったり、キャップ本体が変形してしまう可能性がある。

また、後者のものは二次加工を必要としない反面、構造が複雑となり、成形上、若干の問題点が残っている。

このような問題点を解消すべく、さらに実公昭57-9240号のような構造のものが提案されている。これは第5図に示すようにキャップ本体(1)の下に連結片(2)を介して設けた保証部(3)をキャッ



ピング時に内方に折曲がるような舌片(4)として容器本体(5)の首部の凸部(6)と係合するようにしたものである。

実公昭57-9240号のものは保証部を舌片状として折曲がるように薄肉加工すればよく、成形上の効果はあるが、例えば、第6図に示すように容器本体(5)の凸部(6)に対する舌片(4)の引っかかりが不十分であると、保証部(3)とキャップ本体(1)とが一体のまま、開栓されてしまい、不正使用防止機能が果たされないことになる。

〔問題点を解決するための手段〕

以上の問題点を解決すべく考えられたのが本考案であり、キャップ本体及び該キャップ本体の側壁下端に切断可能な複数の連結片を介して一体に設けられた保証部とから成る合成樹脂製のキャップであって、前記保証部は一定間隔ごとに設けられた舌片を有し、各舌片にはキャップ本体下端とほぼ平行な折曲部及び該折曲部の下方外面に突起を設けたものである。

〔作用〕



本考案のキャップを容器本体の首部に嵌めるときは保証部の舌片を内方に折曲げた状態でキャップを押込み、首部の凸部を乗り越えるようにして嵌めれば、舌片の先端と首部の凸部との係合により固定される。

キャップを外すときはキャップを開栓方向に回わすと、キャップ本体は上昇しようとするが、保証部の舌片は凸部に係止しているために連結片が破断されて、キャップだけが外れて開栓される。

また、容器本体の首部の凸部に対する舌片の引っかかりが不十分である場合には舌片外面の突起が、キャップの上昇に伴って首部への締付けをきつくする働きをする。

#### 〔実施例〕

以下、本考案の実施例を図面に基いて説明する。

まず、第1図に示すように、合成樹脂製のキャップ本体10及び該キャップ本体10の側壁下端に切断可能な複数回の連結片11を介して一体に設けられた保証部12とから成り、前記保証部12は一定間隔ごとに設けられた舌片13を有し、各舌片13にはキ



キャップ本体(10)下端とほぼ平行な折曲部(44)及び該折曲部(44)の下方外面に突起(45)を設けてある。

次にキャップを容器本体に嵌めた状態は第2図に示してあり、保証部(12)の舌片(13)を内方に折曲げた状態でキャップを容器本体(16)に押込み、首部(17)の凸部(18)を乗り越えるようにして嵌めれば、舌片(13)の先端と凸部(18)との係合により固定されている。

なお、第3図(イ)、(ロ)、(ハ)に示すように、舌片(13)先端の断面形状を設定すれば、凸部(18)との係合はさらに確実となる。

また、第4図に示すように、容器本体(16)の首部(17)の凸部(18)に対する舌片(13)の引っかかりが不十分である場合には舌片(13)外面の突起(45)が、キャップ本体(10)の上昇に伴って首部(17)への舌片(13)の締付けを強化するように作用する。

さらに舌片(13)は第1図に示すように保証部(12)の上端から下端に到る切込み(19)により形成してもよいし、または保証部(12)の折曲部(44)より下方の部分だけに切込みを設けて形成してもよい。前者の場合は開栓後、保証部(12)全体が各舌片(13)に分離され



て首部17から落下するが、後者の場合には保証部12の折曲部14より上方の部分は一体になっているので開栓後も容器本体10の首部17に残ることになる。但し、後者の場合、折曲部14より上方の切込み19の延長上に薄肉部を設けておけば、開栓後は保証部12は首部17から取除かれる。

〔考案の効果〕

本考案は以上の構成になっているので次のような優れた実用上の効果をも有する。

イ) 容器本体の首部に対して、舌片を内方に折曲げるだけで通常のキャッピング方法によりキャップを嵌めることができる。

ロ) 保証部に舌片を設けただけの単純な構造であり、製造が簡単である。

ハ) 舌片を折曲げてあるだけでありながら、その折曲げによる反発力により容器本体の首部に対する緊縛は確実であり、凸部との係合も確実である。

ニ) 舌片の外面に突起を設けてあるので、舌片と容器本体の凸部との係合が不十分であったとし





ても、開栓時には確実に連結片が切断される。

附 舌片先端の断面形状を種々、変えることにより、容器本体の凸部と舌片との係合はより確実となる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の部分断面図、第2図は本考案を容器に嵌めた状態を示す部分断面図、第3図(イ)(ロ)は本考案に係る舌片のそれぞれ別の実施例を示す説明図、第4図は本考案の使用状態を示す部分拡大断面図、第5図は従来技術の使用状態を示す部分断面図、第6図は同使用状態を示す部分拡大断面図である。

10 … キャップ本体

11 … 連結片

12 … 保証部

13 … 舌片

14 … 折曲部

15 … 突起

16 … 容器本体

17 … 首部

18 … 凸部

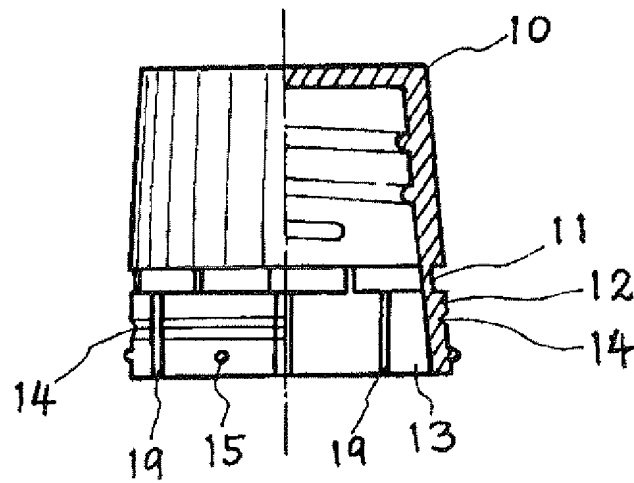
19 … 切込み

実用新案登録出願人

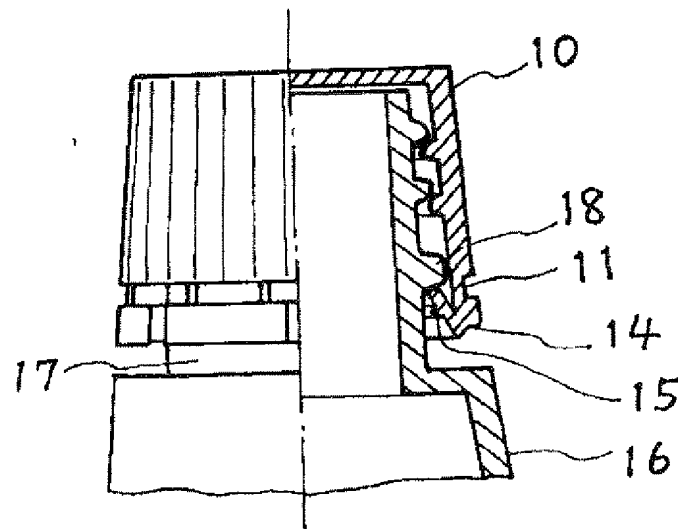
凸版印刷株式会社

代表者 鈴木和夫

第 1 図



第 2 図



451

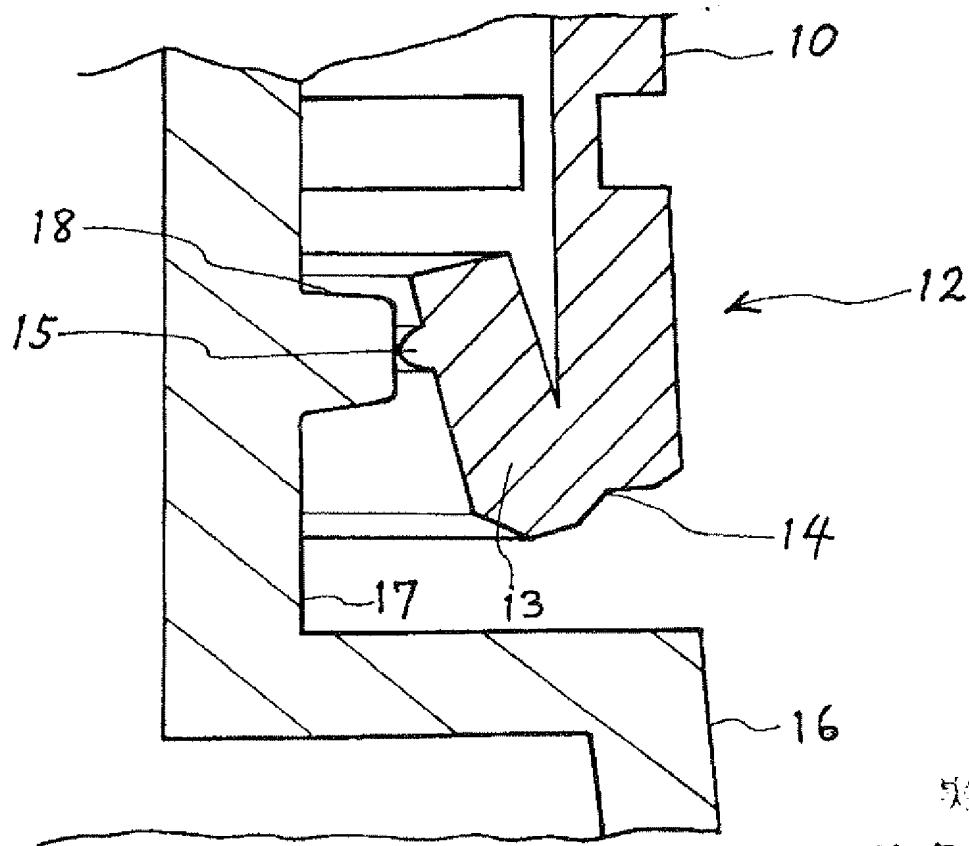
実開62-11745

實用新案登録出願人  
凸版印刷株式会社  
代表者 鈴木和夫

第 3 図



第 4 図

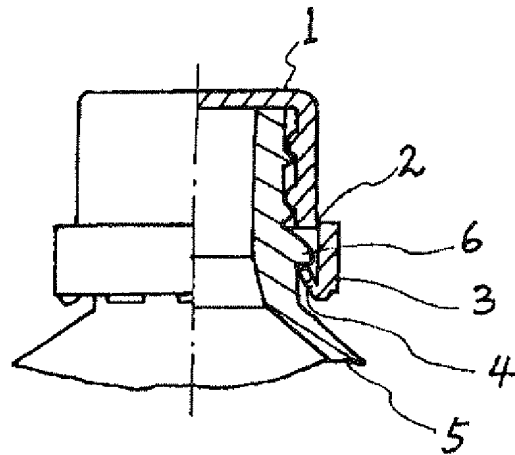


452

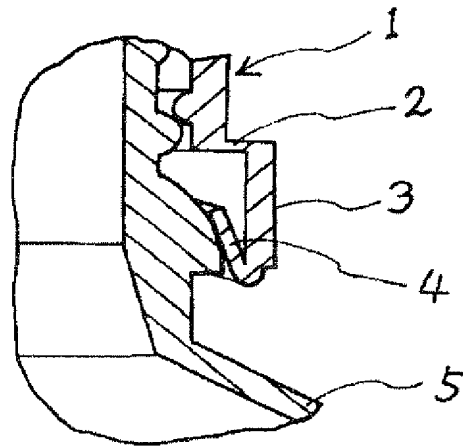
英海62-11741

實用人類新案登錄出版  
品版印刷株式會社  
代表者 鈴木和夫

第 5 図



第 6 図



453

実開62-11745

実用新案登録出願人  
凸版印刷株式会社  
代表者 鈴木和夫

手続補正書（方式）

昭和60年11月15日

特許庁長官殿



1. 事件の表示

昭和60年実用新案登録願第104334号

2. 考案の名称

不正使用防止機能を有するキャップ

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所 東京都台東区台東1丁目5番1号

名称 (319) 凸版印刷株式会社

代表者 鈴木和夫



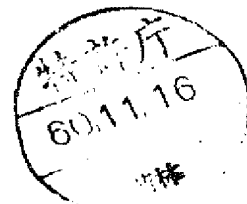
4. 補正命令の日付 昭和60年10月2日

5. 補正の対象

図面の第3図

6. 補正の内容

別紙の通り

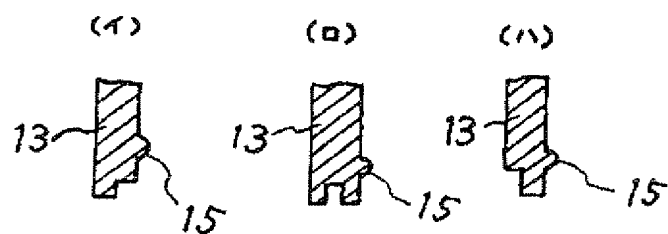


454

方式  
審査



### 第 3 図



60, 11, 15



455

002 1145